

# 参加申込書

【FAX番号】0242-29-5509

申込日：平成 26 年 月 日

ふりがな 氏名	性別	男・女
生年月日	昭和・平成 年 月 日	
現住所	住所 〒	
	TEL(携帯)	
	E-mail	
上記以外の連絡先 (帰省先など、上記以外 の連絡先がある場合に 記入してください)	住所 〒	
	TEL	
大学名	大学 ( 年生)	
出身地	(都道府県名)	(市町村名)
集合場所	JR福島駅西口 ・ 福島県立医科大学 (希望する場所に○を付けてください)	
ご質問、ご要望等が ありましたら、記入 してください。		

※下記メールアドレス宛に、必要事項を記入したうで送信していただいても構いません。  
申込をされた方には、受領した旨の電話またはメールをいたします。  
申込書を送った後、数日経っても連絡がない場合には、下記までお問い合わせください。  
(福島県会津保健福祉事務所 総務企画課 宮嶋 Tel: 0242-29-5504)

〔申込み・お問い合わせ先〕

福島県会津保健福祉事務所 総務企画部 総務企画課

電話 0242-29-5504 FAX 0242-29-5509

E-mail [aidu.hokenfukushi@pref.fukushima.lg.jp](mailto:aidu.hokenfukushi@pref.fukushima.lg.jp)

ホームページ ⇒ [会津保健福祉事務所](#)

〈申込先アドレス〉



福島県奥会津地域 地域医療体験研修

# 医師・患者同行研修 参加者募集

地域医療を支える医師の訪問診療や患者さんの  
受診に同行し、地域医療の現状や医師の果たす  
役割について理解を深めてみませんか？

【参加費】  
無料

日時：平成26年

3月4日(火)～5日(水)



# 行 程

月 日	時 間	行 程	場 所 等
3月4日 (火)	8:30~12:00	移動(福島市→三島町)	福島駅西口 8:30 発 県立医大 9:00 発
	12:00~13:00	昼食	三島町
	13:00~14:00	移動(三島町→金山町)	
	14:00~16:30	① 医師同行研修	金山町
	16:30~18:00	移動(金山町→只見町)、休憩	
	18:00~20:00	② 医療従事者との懇談会	只見町 「季の郷 湯ら里」
3月5日 (水)	7:00~7:30	朝食	
	7:30~8:00	住民宅へ移動	只見町
	8:00~11:00	③ 患者同行研修	
	11:00~12:00	④ 只見町国保診療所視察	
	12:00~13:00	昼食	
	13:00~14:30	⑤ ロールプレイ・まとめ	
	14:30~18:30	移動(只見町→福島市)	福島駅西口 18:00 着 福島医大 18:30 着

## 〔研修の内容〕

### ① 医師同行研修

金山町国民健康保険診療所に勤務する医師が行う横田出張診療所での診療および難病を患っている患者様の在宅診療に同行し、地域医療を担う医師の役割について理解を深めます。

### ② 医療従事者との懇談会

只見町国民健康保険朝日診療所に勤務する医師との懇談を行います。地域医療を担う医師から実体験や医師に求められること等を聞くことで、地域の現状について理解を深めます。

### ③ 患者同行研修

患者様が自宅から受診を終えて帰宅するまでの過程に同行し、患者様が通院する大変さ等を体験するとともに、患者様との交流を通して地域の実情を理解します。

### ④ 地域医療を担う医療現場の視察

只見町国民健康保険朝日診療所の診療現場を視察し、地域医療の実態を理解します。

### ⑤ ロールプレイ

参加した学生が地域医療に従事する医師役となり、地域医療に関する症例についてロールプレイを行います。それにより、地域医療に従事する医師の診断の手法等の実際を学びます。

# 研 修 参 加 者 の 声

〔平成24年度研修参加者〕



医師同行研修で伺ったALSという難病の方は、しゃべることは出来なくても目の動きで自分の意志を伝えることはできて、大変なはずなのにずっと笑顔で「泣いて笑ってこの地で生きていきたい」というメッセージも印象的でした。大きな病院からは遠くても、診療所の先生の訪問診療やヘルパーさん、訪問看護の方の力も借りて、ご家族だけでは大変なこともたくさんの力に支えられて自宅でのんびりと暮らせることは素晴らしいことだなと感じました。

患者同行研修で患者さんの自宅から病院で診察してもらって帰るまで付き添わせて頂いたのもとても勉強になりました。診療所まで足がない地域に住んでいるお年寄りの方々にとって、雪んこタクシーというサービスはとてもいいものだなと感じました。

また、金山町国保診療所横田出張診療所は、待合室がおばあさん達のコミュニケーションの場のようになっていて、町の診療所は治療するだけの場合じゃないのかなとも感じました。

ロールプレイや地域医療に従事する方との懇親会では、地域医療の実情や必ずしも最善とは限らないこと、診療所で出来ること・出来ないことを考えるなど、勉強になりました。また、「ここで働けて、自分は天職だと思える」とおっしゃっていた先生の言葉も印象的でした。

今回参加させて頂いて、なかなか体験できないとてもいい体験をさせて頂くことが出来ました。本当にありがとうございました。

(福島県立医科大学4年生)



〔平成24年度研修参加者〕



医師同行研修で訪問させていただいた患者さんは大学病院に入院、加療されるような非常に重篤な疾患である筋萎縮性側索硬化症を罹患されていました。呼吸筋が弱くなり、自力で呼吸することさえ難しくなった方を自宅で看病するなんて不可能だろうと思っていました。その患者さんのお宅に伺ったとき、まず印象に残ったのは患者さんの満面の笑顔でした。自力では動くこともままならないはずの患者さんの笑顔はどのように守られてきたのだろうか、本当に不思議に思いました。お話を伺っていくうちにその理由が分かりました。「在宅」での療養が可能であったことでした。その療養を支えるために必要だったのは、ご家族のサポートと、診療所の先生の自宅までの往診でした。「定期的な時だけではなく、何か困った時にはすぐ駆けつけて下さるので助かります」と、ご家族はおっしゃっていました。

また、ロールプレイでは、診療所の先生が提示された症例に対し、どのように問診を行うかということを中心に、外来での問診の仕方について学びました。大学でのOSCEに沿った全てをくまなく聞くという方法以外の、各症状に基づいた重篤な疾患の特徴がないかどうか考えながら、問診を行うのが必要であることを学びました。

全体を通して学んだことは地域の特色とニーズにあった医療であることでした。今回研修に参加させて頂いたことで、6年間の大学生活では学ぶことのできなかった地域に根ざした医療を体験し、深く考えてみたことは良い経験になりました。

(東北大学6年生)

